

乙 第 号

上嶋昌和 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙 第 号	氏 名	上嶋昌和
論文審査担当者	委員長	教 授	中島祥介
	委 員	教 授	吉川公彦
	委 員	教 授	吉治仁志
	(指導教員)		

### 主論文

Impact of a transparent hood on the performance and therapeutic result of endoscopic injection sclerotherapy

内視鏡的硬化療法の手技と治療成績における透明フードの有用性

Masakazu Uejima, Masahiko Matsumura, Norie Umemoto, Motoyuki  
Yoshida, Masayoshi Sawai, Tadashi Namisaki, Mitsuteru Kitade,  
Hideto Kawaratani, Hiroaki Takaya, Yosuke Aihara, Akira Mitoro,  
Hitoshi Yoshiji, Junichi Yamao, Hiroshi Fukui

The Journal of Nara Medical Association

第65巻 第4号 51-62頁

2014年 11月発行

## 論文審査の要旨

F0-F1 の細い食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 (EIS) における正確な静脈瘤内穿刺を行うための手技的工夫として、透明フード (MAJ295, 296) を内視鏡先端に装着し、その臨床的効果を後方視的に検討することが、本研究の目的である。

EIS を施行した F0-F1 食道静脈瘤 201 例のうち、1994-2004 年施行の 102 例 (EIS 回数 253) をフード装着無の conventional group (C 群)、2004-2007 年施行の 99 例 (EIS 回数 257) をフード装着有の hood group (H 群) とし、静脈瘤内注入成功率、供血路造影率、静脈瘤消失率、有害事象発生率、累積静脈瘤再発率を比較検討している。

その結果、静脈瘤内注入成功率、供血路造影率とも H 群で有意に高率であるが、重篤な有害事象を両群とも認めないことを明らかにし、本手技の安全性と有効性を確認している。さらに、静脈瘤消失率には両群間で差異を認めないものの、累積静脈瘤再発率は C 群に比較して H 群で有意に低率であり、本手技の長期治療成績における有効性を明らかにしている。

以上より、透明フードを用いた内視鏡的食道静脈瘤硬化療法は、安全かつ容易に供血路までの硬化剤注入を可能にし、静脈瘤の再発抑制にも寄与していることが明確に示されており、本研究は食道静脈瘤の内視鏡的治療の進歩に寄与する有意義な研究と評価される。

## 参 考 論 文

1. Cholangiocarcinoma developed in a patient with IgG4-related disease.  
Douhara A, Mitoro A, Otani E, Furukawa M, Kaji K, Uejima M, Sawai M,  
Yoshida M, Yoshiji H, Yamao J, Fukui H.  
World J Gastrointest Oncol. 2013 Aug 15;5(8):181-5.  
doi: 10.4251/wjgo.v5.i8.181.
2. Liver abscesses after peritoneal venous shunt.  
Kawaratani H, Tsujimoto T, Kubo T, Aihara Y, Takaya T, Uejima M,  
Moriya K, Noguchi R, Yoshiji H, Fukui H.  
Case Rep Gastroenterol. 2013 May 28;7(2):245-50.  
doi: 10.1159/000351833. Print 2013 May.
3. Branched-chain amino acids suppress the cumulative recurrence of hepatocellular carcinoma under conditions of insulin-resistance.  
Yoshiji H, Noguchi R, Namisaki T, Moriya K, Kitade M, Aihara  
Douhara A, Yamao J, Fujimoto M, Toyohara M, Mitoro A, Sawai M,  
Yoshida M, Morioka C, Uejima M, Uemura M, Fukui H.  
Oncol Rep. 2013 Aug;30(2):545-52.  
doi: 10.3892/or.2013.2497. Epub 2013 May 27.
4. An adult case of congenital adrenal hyperplasia due to 21-hydroxylase deficiency associated with bilateral adrenal myelolipoma : An 8-year observation of clinical characteristics during steroid replacement therapy.  
Okamoto S, Izumi Y, Hosokawa A, Sugimoto Y, Tanaka Y, Uejima M,  
Ikenaka Y, Kuriyama S, Samma S, Kyumon M, Okada H, Hirao Y,  
Okajima E, and Fukui H  
Journal of Nara Medical Association 49, 147~155, 1998

5. A case of an isolated adrenocorticotropin (ACTH) deficiency : Resolved and delivered a child after 8 years of treatment  
Okamoto S, Ueda S, Tsukamoto N, Sugimoto Y, Tanaka Y, Uejima M,  
Matsuo T, Izumi Y, Hosokawa A, Ikenaka Y, Kuriyama S, and Fukui H  
Journal of Nara Medical Association 49, 147~155, 1998
6. 孤立性胃静脈瘤に対する予防的治療の適応基準 経過観察例による検討  
上嶋昌和 松村雅彦 小島邦行 梅本典江 瓦谷英人 福井博  
日本門脈圧亢進症学会雑誌 17:145-147, 2011
7. 透明フードを用いた内視鏡的硬化療法 標準手技としてのフード法の有用性  
上嶋昌和 梅本典江 小島邦行 瓦谷英人 武山真也 福井博 松村雅彦  
日本門脈圧亢進症学会雑誌 18:189-193, 2012
8. 【高齢化社会における NSAIDs 消化管障害】 COX-2 選択性 NSAIDs による上部消化管障害のリスクファクター  
沢井 正佳, 山尾 純一, 美登路 昭, 吉田 太之, 野口 隆一, 浪崎 正,  
上嶋 昌和, 田原 一樹, 守屋 圭, 北出 光輝, 竹田 幸祐, 瓦谷 英人,  
大倉 康志, 高谷 広章, 堂原 彰敏, 西村 典久, 澤田 保彦, 関 健一郎,  
石田 光志, 吉治 仁志, 福井 博  
消化器内科 59 巻 2 号 Page123-130 2014
9. 高齢者進行肝細胞癌の治療選択 ソラフェニブか肝動注化学療法か  
守屋 圭, 吉治 仁志, 堂原 彰敏, 浪崎 正, 野口 隆一, 上嶋 昌和,  
瓦谷 英人, 相原 洋祐, 高谷 広章, 北出 光輝, 西村 典久, 関健一郎,  
賀屋 大介, 辻 裕樹, 錦織 麻衣子, 田原 一樹, 吉田 太之, 豊原眞久,  
美登路 昭, 藤本 正男, 沢井 正佳, 山尾 純一, 福井 博  
日本高齢消化器病学会誌 16 巻 2 号 Page26-32 2014
10. 当科における耐術能不良な食道がん症例に対する集学的治療の現状 特に高齢者治療の観点から  
古川 政統, 守屋 圭, 美登路 昭, 吉田 太之, 沢井 正佳, 上嶋 昌和,  
浪崎 正, 藤永 幸久, 大谷 絵美, 辰巳 晴規, 鍛冶 孝祐, 相原 洋祐,  
堂原 彰敏, 高谷 広章, 武山 真也, 津呂 公規, 森岡 千恵, 野口隆一,  
池中 康英, 豊原 眞久, 吉治 仁志, 藤本 正男, 植村 正人, 福井 博,  
山尾 純一  
Journal of Nara Medical Association 63 巻 3-4 Page47-53 2012
11. 診断的治療のために胃粘膜下層剥離術(ESD)を施行した胃脂肪腫の1例  
堂原 彰敏, 美登路 昭, 古川 政統, 才川 宗一郎, 鍛冶 孝祐,  
上嶋 昌和, 沢井 正佳, 吉田 太之, 山尾 純一, 福井 博  
Gastroenterological Endoscopy 54 巻 9 号 Page3141-3147 2012
12. 【これだけは知っておきたい検査のポイント】 内分泌学的検査 下垂体 GH(成長ホルモン)  
岡本 新悟, 上嶋 昌和, 樽松 由佳子  
Medicina 47 巻 11 号 Page306-308 2010

- 1 3. 内視鏡的硬化療法時の栄養管理における経口特殊アミノ酸製剤の有用性  
沢井 正佳, 松村 雅彦, 池中 康英, 上嶋 昌和, 森安 博人, 梅本 典江,  
森岡 千恵, 小島 邦行, 北出 光輝, 吉田 太之, 福井 博  
栄養-評価と治療 26 巻 5 号 Page430-435 2009
- 1 4. 留置 19 ヶ月後に閉塞した VIABIL stent を内視鏡下に除去できた Vater 乳頭部癌の 1 例  
吉岡 哲也, 坂本 雅彦, 堀川 典子, 中谷 敏也, 上嶋 昌和  
奈良県立奈良病院医学雑誌 13 巻 1 号 Page57-61 2009
- 1 5. 糖尿病治療中に発症した原発性肝細胞癌の 1 例  
岡村 亮輔, 中谷 敏也, 武山 真也, 明石 陽介, 橋本 耕二, 上嶋 昌和,  
松尾 英城, 山根 佳子, 菊池 英亮, 大山 孝雄, 渡辺 明彦  
奈良県立奈良病院医学雑誌 12 巻 1 号 Page103-106 2008
- 1 6. 重症急性膵炎を契機に診断しえた副甲状腺腺腫の 1 症例  
高瀬 彩子, 上嶋 昌和, 橋本 耕二, 武山 真也, 明石 陽介, 松尾 英城,  
山根 佳子, 中谷 敏也, 菊池 英亮  
奈良県立奈良病院医学雑誌 12 巻 1 号 Page96-98 2008
- 1 7. S-1/cisplatin 併用化学療法が著効し長期反復投与可能であった胃癌肝転移の 1 例  
山崎 純子, 松尾 英城, 山根 佳子, 佐谷 江梨, 武山 真也, 村田 早苗,  
永松 晋作, 明石 陽介, 橋本 耕二, 上嶋 昌和, 中谷 敏也, 菊池 英亮  
奈良県立奈良病院医学雑誌 12 巻 1 号 Page92-95 2008
- 1 8. 無症状で発見された粘液産生肝内胆管癌の 1 例  
明石 陽介, 竹内 洋司, 前川 泰寛, 上嶋 昌和, 松尾 英城, 豊川 泰勲,  
山根 佳子, 中谷 敏也, 菊池 英亮, 大山 孝雄, 渡辺 明彦, 吉岡 哲也,  
奈良県立奈良病院医学雑誌 10 巻 1 号 Page60-64 2006
- 1 9. 第 3 世代 SU 薬グリメピリド(アマリール)の使用経験  
玉川 泰浩, 齋藤 恒, 上嶋 昌和, 田中 康代, 長谷川 義展, 田村 信宏,  
伯耆 徳之, 松山 義則  
新薬と臨牀 49 巻 9 号 Page847-851 2000
- 2 0. 食事療法のみで皮疹の改善をみた eruptive xanthoma の 1 例  
山本 純照, 山科 幸夫, 宮川 幸子, 白井 利彦, 上嶋 昌和, 岡本 新悟  
皮膚 42 巻 4 号 Page410-414 2000
- 2 1. 38 口径低速弾による銃創の 1 例  
小延 俊文, 川西 弘一, 畑 倫明, 稲田 有史, 今西 正巳, 村尾 佳則,  
宮本 誠司, 上嶋 昌和, 植村 天受, 平尾 佳彦  
Journal of Nara Medical Association 50 巻 5 号 Page442-446 1999

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに内視鏡的治療の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 27 年 11 月 10 日

学位審査委員長

消化器機能制御・移植医学

教 授 中島祥介

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教 授 吉川公彦

学位審査委員（指導教員）

消化器病態・内分泌機能制御医学

教 授 吉治仁志